

藝園と草牧

第六卷・第三号

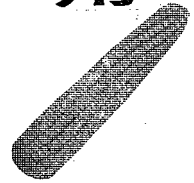
昭和二十八年五月十五日第三種郵便物認可
昭和三十三年三月一日(毎月一回)刊

夕辰部沼所字幌内一〇六六
雪印種苗株式会社
中央研究農場



雪印種苗株式会社

飼料用



玉蜀黍一代雑種の選定と利用

家畜の在る処北は北海道から南は九州に至るまで多少の差こそあれ必ず栽培されているのが玉蜀黍で、わが国の飼料作物の代表的なものであります。

この玉蜀黍の最近の飼料栽培としての傾向は、

○時期的：周年時無しの(寒冷地でも二毛作として春夏播き)

○栽培法的：品種の混播(所謂ブレンド)

○品種的：従来単種一点張りから一代雑種の利用

と変わりつつありますが、その何れもが、飼料の多収獲を目的としたものであることは勿論です。

飼料作物も一般作物と同様最も簡単な増収方法はというと品種の選定によつて得られる増収であります。即ち同じ土壌、肥培管理によつても優良な品種を導入することによつてもたらされる増収はなんとでも手取り早い事であり、最近玉蜀黍栽培にあつてはF₁(エフワン)又はハイブリッド・コーンが関心を集めているのも、何んとかして簡単に(他の増収方法に較べて)飼料を多収しようという処に起因しているのではありません。

以下玉蜀黍の多収の一手段である一代雑

種の選定利用について参考としていただきたい事を書くことと致します。

一 玉蜀黍の一代雑種とはどんなものか

玉蜀黍は雄花先熟で、葯(頂上に咲く雄花)から出た無数の花粉は風に伴われて遠く飛散し、他花授精を行う作物であります。従つて米麦や豆類のように人工交配を行つて優良系統を育成することは困難であります。

又玉蜀黍は雑種強勢を顕著に示す作物でありますから、その生産力は雑種第一代の利用によつて更に増収を期待することが出来ます。そこで現在の玉蜀黍の品種改良の方法は専ら雑種強勢を利用する方法が採られて居り、世間でいっている玉蜀黍のF₁(エフワン)又はハイブリッドというのは、生産力を上げるために改良された玉蜀黍の一代雑種をいつているわけであり、従つてこれは雑種の一代目に限つて生産力の増加が望まれるのであつて、それから採種したものは決して前代のもと同じような高い生産力をあらわしてくれません。

二 玉蜀黍一代雑種はどうしてつくるか
玉蜀黍の一代雑種をつくる方法は大別して次の二通りがあります。

- (1) 品種間交配による一代雑種
長野県で行つている所謂長交系のものは

この方法でつくられたもので、父と母の二品種間に出来た雑種であります。玉蜀黍の品種改良の進んでいる米園ではこの方法はあまり効果がないという事であるが、現在日本法による一代雑種は作つて居りませんが、わが国の場合は日本在来種とアメリカ品種の組合せで、これら品種は遺伝的に遠縁であるために雑種強勢が強くあらわれ、一代雑種として十分利用価値のあるものが作られて居ります。

(2) 系統間交配による一代雑種
優良自殖(一個体の雄花、雌花で種子をとつた)系統を育成し、この系統間に交配を行い、それを栽培して優劣を比較してその結果優良なる組合せを決定して、その交配種子を利用する方法で、米園では現在殆んどが本方法によつており、組合せに関する系統数(A・B・C・Dの系統とする)によつて単交配(A×B、又はC×D) 複交配(A×B)×(C×D)又は三系交配(A×B)×C)等があります。

北海道で作られている一代雑種は殆ど

れで複交四号等は複交配によつたものであります。

三 玉蜀黍一代雑種の選定はどうすべきか
雑種強勢の発現が顕著であるから、一代雑種でさえあればどんなものでもよいかと申しますと、そうは参りません。一代雑種も矢張り単種(一般品種)と同様品種系統によつて種々と特性が違つて居りますから、よく立地条件や利用目的によつて系統を選定しなければ折角の増収目的に反する

表紙写真の説明

牧草と園芸 三月号 目次

- ◇飼料用玉蜀黍一代雑種の選定と利用……………二
- ◇雑草活用養鶏と飼料作物
雑草養鶏をより高度に活かす牧草について……………三浦栢楼…四
- ◇飼料作物種子発芽の知識……………長谷部恒広…六
- ◇年中豊富に緑葉が出来る
ケール(緑葉甘藍)……………兼子達夫…八
- ◇ルーサン栽培利用の一例……………寺林 正…一〇
- ◇住宅の造園と庭園美化……………石田文三郎…三
- ◇中国見たまま聴いたまま……………あをやまひさし…四
- ◇西洋蔬菜の作り方と喰べ方……………八 欽利郎…七

ことも生じます。

選定に當つて注意すべき事項を挙げます

- (1) 栽培地の気候特に気温の関係を考へて選ぶこと、その標準は子実を目的とする場合はその土壌の無霜日数より一五日位短い生育日数のものを選ぶこと。
- (2) 旱魃に対する抵抗力、玉蜀黍は旱魃特に出穂前後の旱魃は収量に影響するのでこれに強いものを選ぶこと。

